

未妊レポート

～子どもを持つことについて～

25～45歳、未婚・既婚1,000人の女性を対象にした調査



* Research Question *

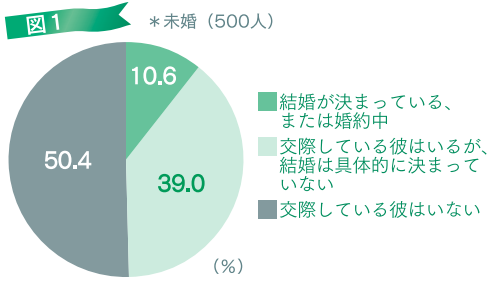
仕事や自己実現など人生の選択肢が増える中、
25～45歳のまだ子どもを持たない女性たちは、
子どもを持つことや、自らの産み時について
どのように考えているのだろうか。

男性との交際・結婚観

〔未婚者〕

約半数が「交際している彼はいない」

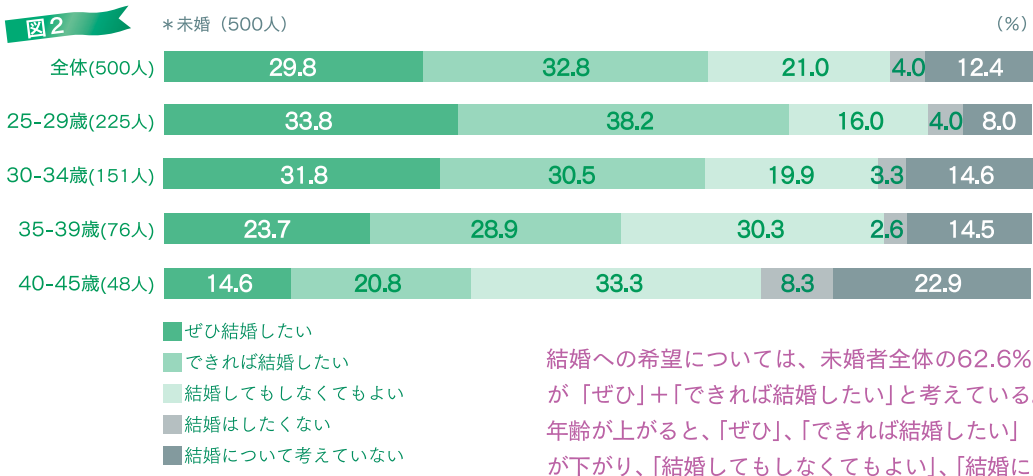
Q 現在、交際している人はいますか。



未婚者全体で、約半数の人は、交際している相手がない。年齢が上がると交際していない率も上がり、25～29歳では42.7%だが、30～34歳55.6%、35～39歳52.6%、40～45歳66.7%と上がる。婚約中、または交際中の人(248人)の21.4%が、同棲していた。

結婚願望は、年齢と共に弱まっていく。

Q 結婚について、お気持ちにあてはまるものを1つ選択してください。



結婚への希望については、未婚者全体の62.6%が「ぜひ」+「できれば結婚したい」と考えている。年齢が上がると、「ぜひ」、「できれば結婚したい」が下がり、「結婚してもしなくてもよい」、「結婚について考えていない」が増える。

調査概要

- 調査方法** インターネット調査(2007年8月3日～10日に実施)
- 調査対象** 25～45歳の子どもがおらず、妊娠していない女性1,000人(未婚500人、既婚500人)
- 調査地域** 首都圏・愛知・大阪・福岡
*居住地域の構成比や就業割合は、2005年国勢調査等の構成比を参考に、標準的なサンプル構成となるようにした。
- 調査項目**
 - 〔未婚〕 交際・同棲の実態、結婚について
 - 〔既婚〕 子どもを持つタイミング、妊娠に向けた取り組み、不妊の可能性・治療の有無
 - 〔共通〕 子どもを持つこと、子どもを産みたい理由、理想子ども数・性別、第一子を持ちたい年齢、赤ちゃんとの接触経験、パートナーの家事協力、健康について、仕事・職場について、理想のライフコース

*本調査データは、統計解析ソフト(SPSS)を使用して分析を行っている。各図表の数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

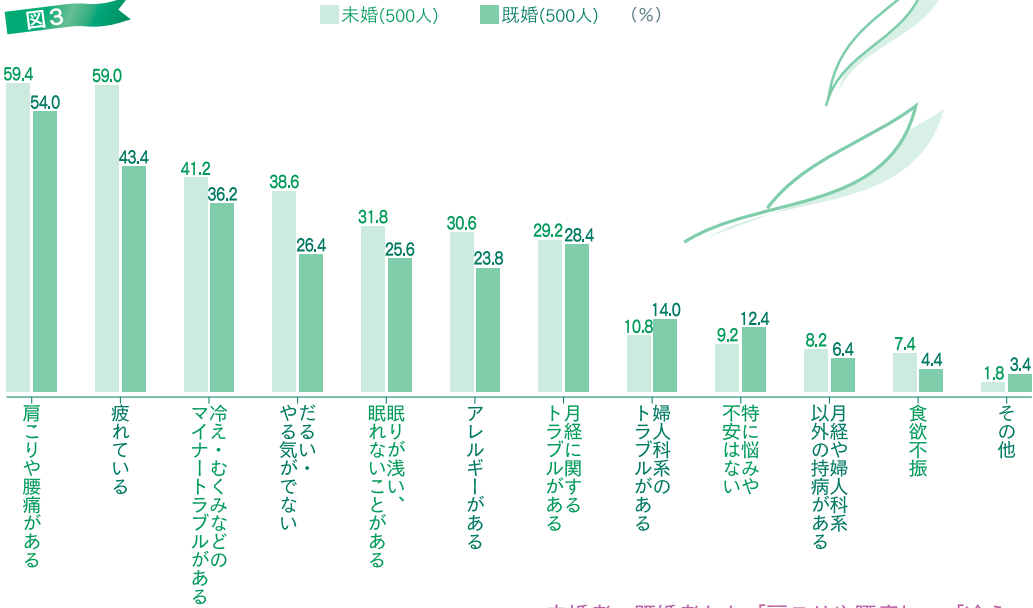
疲れを感じている人、肩こりや冷えなどの不定愁訴に悩む人が多い。



健康状態について

〔全体〕

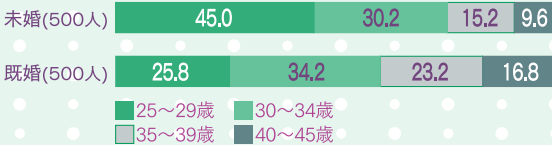
Q 現在のあなたの健康状態に近いものを選んでください。(複数回答)



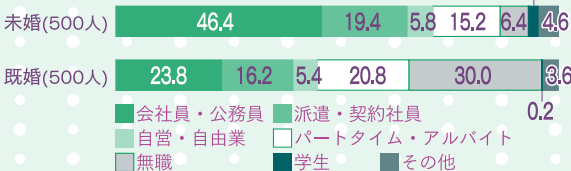
未婚者、既婚者とも「肩こりや腰痛」、「冷え・むくみなどのマイナートラブル」などの不定愁訴を抱える人が3~5割いる。未婚者を中心に「疲れている」、「だるい・やる気がでない」など、疲労感を訴える人も多い。「月経に関するトラブル」に悩む人も、未婚者、既婚者ともに3割弱みられた。この「月経に関するトラブル」は、年齢の低いグループのほうが多かった。全体では、仕事を持っている人のほうが、持っていない人に比べて、「疲れている」と回答する割合が高かった(有職55.2%、無職35.5%)。



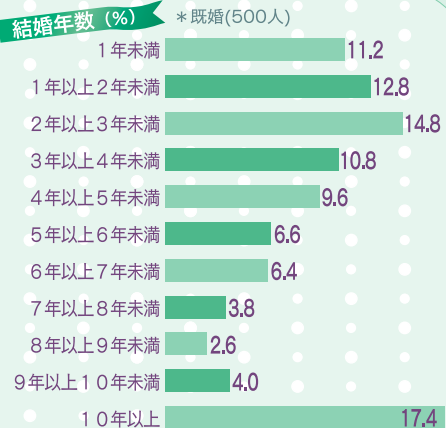
年齢 (%)



就業形態 (%)



結婚年数 (%)



基本属性

若い世代を中心に、全体で6割前後が子どもを持ちたいと思っている。

Q 「子どもを持つこと」について、お気持ちにあてはまるものを1つ選択してください。

図4-1

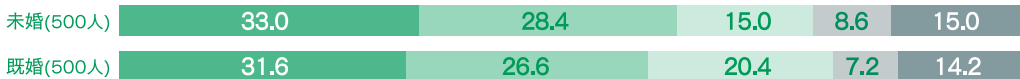
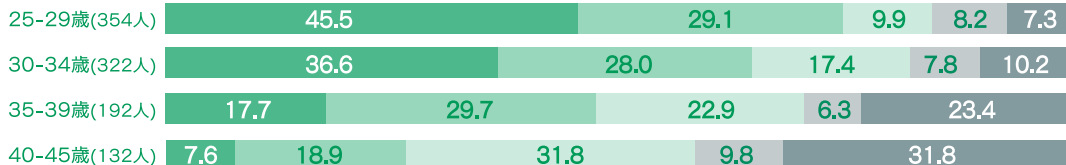


図4-2

*全体（年齢グループ別）



■ぜひ子どもが欲しい ■できれば子どもが欲しい ■子どもはいてもいなくてもよい
■子どもは欲しくない ■子どもを持つことについて考えていない

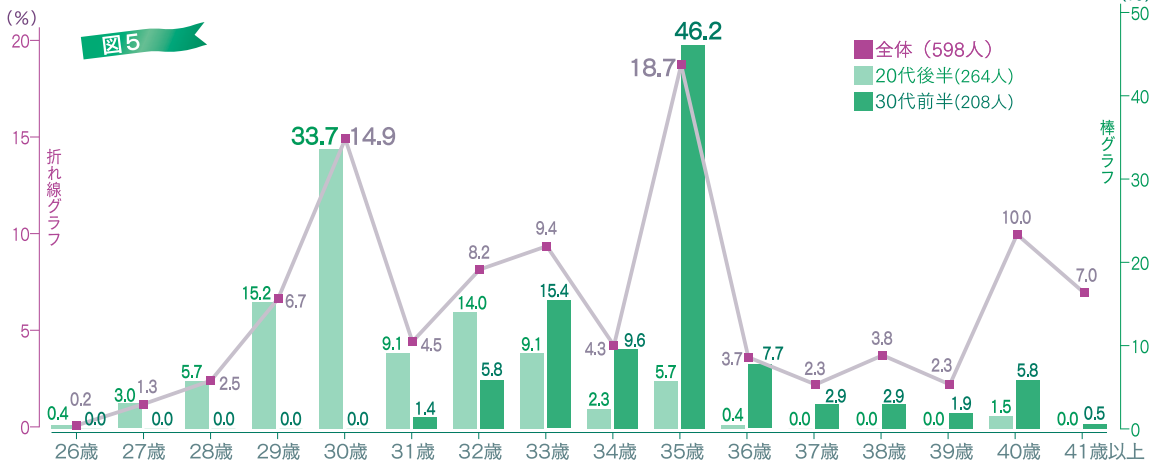
未婚者、既婚者とも、6割前後が子どもを持ちたいと思っている（図4-1「ぜひ」+「できれば」）。全体を年齢グループ別に見ると、25～29歳は45.5%が「ぜひ子どもが欲しい」を選び、意欲がもっとも強い（図4-2）。年齢が上がるにつれて意欲は下がり、40～45歳では3割以上が「子どもを持つことについて考えていない」と回答している。

第一子を産みたい年齢は、30歳と35歳が山。

Q 何歳までに第一子を産みたいと思われますか。

*折れ線グラフ：「ぜひ」+「できれば子どもが欲しい」と回答した598人（未婚307人+既婚291人）

*棒グラフ：「ぜひ」+「できれば子どもが欲しい」と回答した人のうち、現在年齢が25～29歳（264人）と30～34歳（208人）。

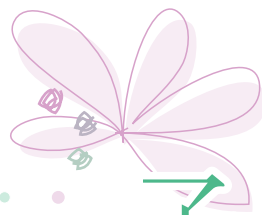


第一子を産みたい年齢は、全体での平均年齢は34.3歳で、30歳と35歳の2つの山があった。なぜその年齢で産みたいのか、理由を自由回答してもらったところ、既婚者、未婚者ともに「年齢的ナリミット」「適正年齢だから」という年齢的な理由や、体力的な理由を挙げる人が多い。また、子どもを複数持ちたいと考えている人で、末子を産み終わる年齢から考えて、第一子の出産年齢を計算している人もいた。

25～29歳と30～34歳の年齢グループを取り出して、第一子を産みたい年齢をみると、現在20代後半は30歳、現在30代前半は35歳を目標にしている人が多い。

子どもを持ちたい年齢

全体



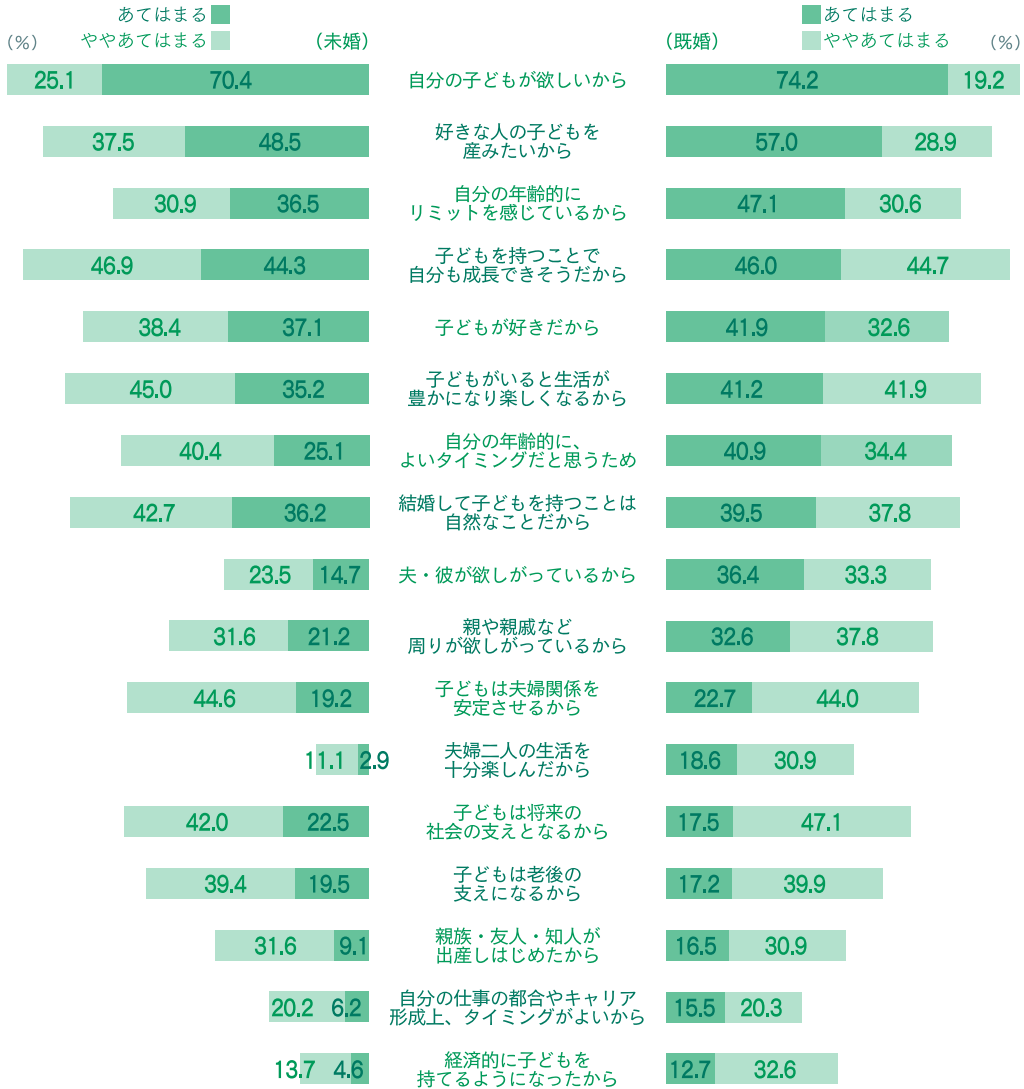
「自分の」、「好きな人の」子どもが欲しい。

子どもを産みたい理由

〔全体〕

Q 現在、または将来「子どもを産みたい」と思われる理由として、それぞれお気持ちにあてはまるものを1つ選択してください。
 (「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」)

図6 *「ぜひ」+「できれば子どもが欲しい」と回答した人(未婚307人、既婚291人)
 *既婚者の「あてはまる」の回答率の高い順に表示。



「ぜひ」+「できれば子どもが欲しい」と回答した人には、子どもを産みたい理由を17項目挙げ、それぞれ「あてはまる」「やや」「あまり」「あてはまらない」から選んでもらった。未婚者、既婚者ともに傾向は変わらず、「自分の子どもが欲しいから」、「好きな人の子どもを産みたいから」、「子どもを持つことで自分も成長できそうだから」、「子どもが好きだから」という理由を選択する率が高い(「あてはまる」の回答率)。また、「自分の

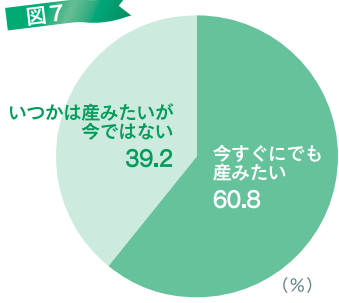
年齢的にリミットを感じているから」という年齢的な理由も上位5位に入っている。この理由の回答率は、平均年齢の高い既婚女性のほうが高い。「自分の仕事の都合やキャリア形成上、タイミングがよいから」、「経済的に子どもを持てるようになったから」は、これから子どもを産みたいと思う理由としては上位に上がってこなかった。また、「子どもは老後の支えになるから」という理由も低かった。

既婚女性の約6割は、「今すぐにも子どもが産みたい」と思っている。

既婚女性の妊娠に対する意識・実態

Q 子どもを産むタイミングについて、あてはまるものを1つ選択してください。

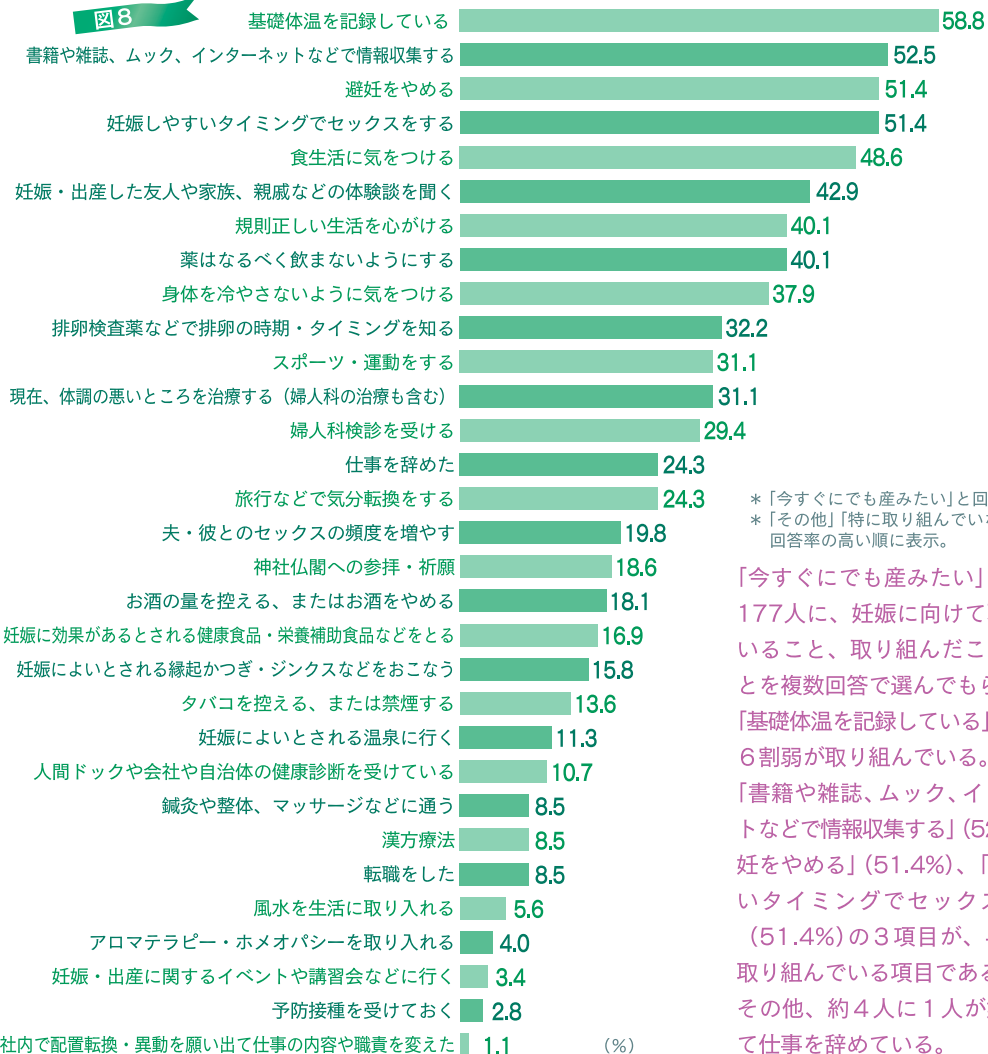
*既婚者のうち「ぜひ」+「できれば子どもが欲しい」と回答した291人。



既婚者のうち、「ぜひ」+「できれば子どもが欲しい」と回答した291人に、子どもを持つタイミングについてきいたところ、約6割が「今すぐにも産みたい」と回答し、約4割は「いつかは産みたいが今ではない」と回答した。結婚してからの年数別にみると、結婚1年未満の人は、「今ではない」人の割合が「今すぐ産みたい」を上回るが、結婚1年以上経つと、「今すぐ産みたい」人の割合が上回る。また、仕事を持つ人と持たない人との比較でも、子どもを持つタイミングについては同じ傾向で、差は見られなかった。

妊娠に向けて取り組んでいること…「今すぐ」と答えた人は、約6割が妊娠に向けて、基礎体温を測っている。

Q 妊娠に向けた取り組み・情報収集・健康・体づくり・仕事と生活のバランスなどに関して、あなたが現在取り組んでいる／取り組んだことがあることを教えてください。(複数回答)



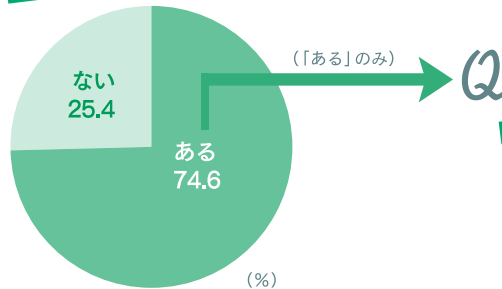
*「今すぐにも産みたい」と回答した177人。
*「その他」「特に取り組んでいない」以外を回答率の高い順に表示。

「今すぐにも産みたい」と回答した177人に、妊娠に向けて取り組んでいること、取り組んだことがあることを複数回答で選んでもらった。「基礎体温を記録している」が第1位で、6割弱が取り組んでいる。次いで、「書籍や雑誌、ムック、インターネットなどで情報収集する」(52.5%)、「避妊をやめる」(51.4%)、「妊娠しやすいタイミングでセックスをする」(51.4%)の3項目が、半数以上が取り組んでいる項目である。その他、約4人に1人が妊娠に向けて仕事を辞めている。

「今すぐ」と答えた既婚女性の7割以上が、自分または夫の不妊の可能性を考えたことがある。

Q あなたは、自分またはご主人が「不妊の可能性があるのでないか」と思ったことがありますか。

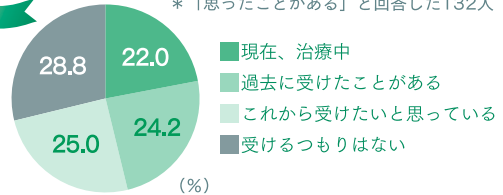
図9-1 * 「今すぐ子どもが欲しい」と回答した177人



「今すぐ子どもが欲しい」と答えた177人のうち74.6%が、「自分または夫の不妊の可能性があるのでないかと思ったことがある」と回答した。「ある」と回答した132人のうち22.0%は

Q あなたかご主人、あるいはご夫婦で、婦人科・不妊クリニックでの不妊治療を受けたことがありますか。

図9-2 * 「思ったことがある」と回答した132人

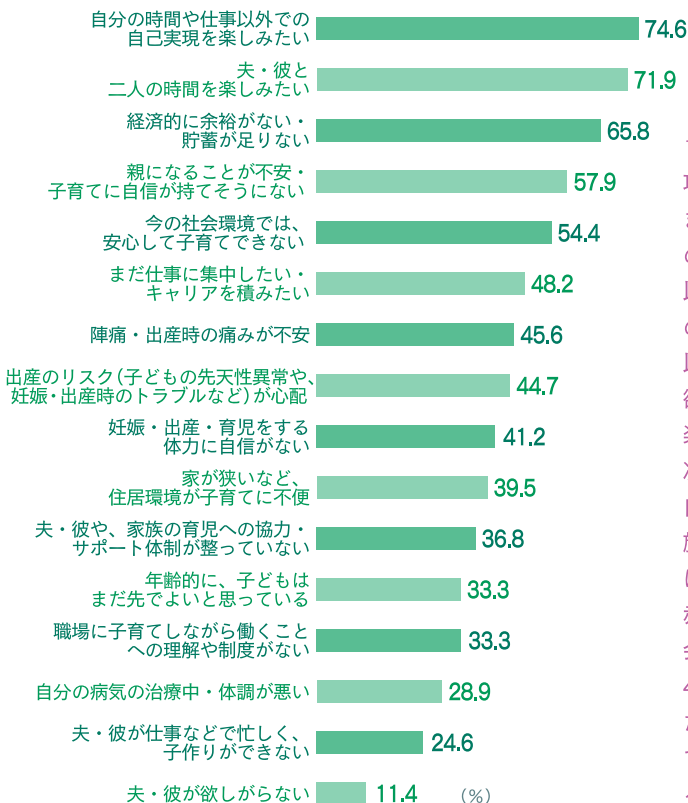


現在不妊治療中で、24.2%は過去に治療を受けた経験がある。これから治療を受けたいと思っている人も、4人に1人いる。

妊娠・出産を先延ばしにする理由は、生活レベルの維持や、自分や夫との時間を楽しむため。

Q 「いつかは産みたいが、今ではない」と答えた理由として、それぞれお気持ちにあてはまるものを1つ選択してください。

図10 今の生活レベルを維持したい 77.2



(「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」)

* 「いつかは産みたいが、今ではない」と回答した114人。
* 「あてはまる」+「ややあてはまる」。

「いつかは産みたいが、今ではない」と回答した114人には、妊娠を先延ばしにする理由を17項目提示し、それぞれ「あてはまる」「やや」「あまり」「あてはまらない」から選んでもらった。「今の生活レベルを維持したい」、「自分の時間や仕事以外での自己実現を楽しみたい」、「夫・彼と二人の時間を楽しみたい」という理由がいずれも7割以上で上位3位を占めている。いずれは子どもが欲しいが、今しばらくは子どものいないゆとりを楽しみたいという期間限定の思いが伺われる。次いで、経済的な理由と、親になることに対する自信のなさ、社会環境に対する不安が続く。核家族化が進行し、赤ちゃんに触れ合う経験を持つ人は少なくなっている。本調査でも全体の42.7%は、赤ちゃんに身近に接したり、世話をしたりする機会を持ったことがないと回答している。また、45.6%が「陣痛・出産時の痛みが不安」と回答した。出産体験の素晴らしさや喜びも語り継ぐことで、子どもを産みたいと思う女性が妊娠を躊躇することのないよう働きかけることも大切であろう。



竹内 正人 (産科医 東華ヒューマンズドケアセンター・ラウンジクリニック代表)

晩産化(第一子出産希望年齢が進んでいる背景には、生物としての「適妊期」と、社会的に子どもを産める時期の乖離がある。また、出産可能年齢にリミットがある女性と、ない男性に、子どもを持ちたいタイミングの温度差もある。今回の調査結果から、女性は35歳ではまだ余裕を感じているようであるが、そこを過ぎると、出産とこれからの生き方について改めて考え始めるという状況がみえる。これは、生物学的には少し遅いが、一方、若い世代に子どもを持ちたい割合が高いことには希望が持てる。さらに若い層(10代・25歳未満)の意識も知りたい。今回の結果から、私が特に感じた3点について概説する。

1 煮え切らない男たち：未婚者の交際状況で、「彼がいない」がどの層でも約50%。さらに、彼がいても結婚は具体的に決まっていけない人の割合が、30・34歳で33・8%。35・39歳になると39・5%にまで上昇していることに驚かされた。その背後に、煮え切らない男性・年齢の割に幼く未熟な男性の存在が見えてくる。これは多くのカップルと、日々接していると感じることで、交際・結婚・妊娠の決定において、男性の決断力

がないことが伺われる。**2 女性の純粋な欲望**：子どもを産みたい理由で、未婚・既婚女性ともに「自分の子どもが欲しいから」「好きな人の子どもの産みたいから」が8・9割を超えていて、経済的理由、仕事とのタイミング、さらには、「夫・彼が欲しいがっているから」をはるかに上回っていることに一男性として感心した。逆に「好きな人に子どもを産んでもらいたいから」に、どれだけの男性が当てはまると答えられるのだろうか。

3 男性の家事協力意識の向上：レポート内では割愛されているが、夫・彼の家事協力の質問があり、「とても協力的」23・1%、「まあ協力的」42・3%と、約65%もの女性がパートナーを評価していた。**④**女性からの評価として、これはかなり高い数値という印象である。現代の男性のほとんどは、協力意識をもっていると思うが、場がうまくあてられず、協働育児がうまく機能してこなかった状況もあった。女性のパートナーへの接し方、意識も変わっているのではないか。男性は煮え切らなくても、一旦、その状況に入れば、適応していけるという期待ももてるデータである。

④ 既婚者500人+彼と同居している未婚者53人

調査から見えてくるNew Japan



河合 蘭 (出産ジャーナリスト/『未妊-「産む」と決められない』著者)

「産みたい」は身体的な願望：今回の調査を見てまず印象的だったことは、まだ産んでいない女性の6割が子どもを望んでおり、そこに未婚・既婚の差、仕事の有無による差がなかったことでした。子どもが欲しいと思う気持ちは社会的条件にはあまり左右されないのかもしれない。産みたい理由を見ても、「自分の子どもが欲しい」「好きな人の子どもの産みたい」といった自分から湧き出る直感的・身体的な欲望が上位にあります。以前なら夫や親族の期待に応えるために産む人が多かったかもしれませんが、今の女性は、自身身をじっくりと見極めて答えを出していくでしょう。

個人主義のジレンマ：自分のために産めるようになったのですから、女性にとつては、楽しく出産・育児ができる時代の到来であるはずですが、しかし、自分を大切にすることが許される個人主義にはジレンマがあります。子育ては、時には自分を犠牲にして他者を大切にすることだからです。出産を引き延ばす理由についての質問で、彼女たちは、自分のお金や時間を子どもに差し出すことに強い抵抗感を示しました。そこでお金や時間に余裕ができるのを待つことにすると、どうしても高

齢出産になります。**「産む不安」の次は「産めない不安」**：現代の女性は情報収集力、行動力に優れていて、妊娠すると決めたら着々と作戦を進めます。すぐに子どもを、と望んでいる既婚女性の半数以上が基礎体温をつけ、排卵日の頃に性生活を持つようにはしていました。ただ、性が義務化すると、特に男性は性欲をなくしてしまっています。

それでも作戦を練ってしまいう裏には、健康や妊娠力への不安があります。不妊の可能性を考えたことがある人は何と4人中3人もいました。現在の健康状態の調査でも疲労や腰痛を訴える人が全体の半数に上り大変心配です。育児休業制度など、働き方の見直しも重要でしょう。それに加え、個人主義をもつと成熟させ人が支え合えるものにする、そして男女が妊娠前からもつと健康になることが、未妊の悩みには必要ではないでしょうか。

未妊レポート～子どもを持つことについて～ 25～45歳、未婚・既婚1,000人の女性を対象にした調査